

肝臓外来のご紹介



肝臓がんにならないために。。。。

皆さんは肝臓病というどのようなイメージをお持ちですか？

肝臓病には急性の病気と慢性の病気があります。急性のものとしては、例えば皆さんが服用しているお薬が原因で起こる薬剤性肝障害やウイルス性の急性肝炎が代表的です。急性肝障害では劇症肝炎（肝臓の細胞がほとんど死んでしまう）になると命にかかわりますが、ほとんどは早期に発見し、適切な治療が行われたら治る病気です。

問題になるのは慢性の肝障害です。日本では肝臓がんの約5%は正常な肝臓にできますが、その他は肝炎ウイルス、自己免疫疾患、アルコール、脂肪肝などが原因の慢性の肝臓病をもった人に発症します。

ですから私たち肝臓専門医にはこのような慢性の肝臓病をもった患者様を早く見つけ、定期的に外来を受診してもらい、経過観察や治療を行っていくことが求められるのです。しかし、慢性の肝臓病は自覚症状がないことが特徴で（肝臓病の終末像である肝硬変が進行すると、黄疸や腹水などが出現します）、皆さんも痛みがあるなどの症状があれば病院を受診しようと思われるでしょうが、検診で異常値があったくらいではまた来年と考え、受診する機会を失っていることが問題なのです。慢性の肝障害の治療の目標は肝硬変への進展を抑えることと、がんの早期発見・早期治療をすることです。これを達成するには病気の早期発見のため、皆様に病院を受診していただかなければなりません。

現在、肝臓がんの原因としては、C型肝炎やB型肝炎のようなウイルスによるものがほとんどでしたが、これらの病気に対する最近の治療の進歩は目覚ましく、特にC型肝炎は内服薬のみでほぼ100%の患者さんが治る時代になりました。今後我が国で問題になるのは脂肪肝です。脂肪肝の中で約1割の方が肝硬変まで進展し、肝がんの発症の危険を有する非アルコール性脂肪肝炎（NASH, ナッシュ）という病気を持っています。ですから脂肪肝だからと軽く考えず、NASHかどうか受診して調べる必要があるのです。

ではどうやって肝臓病の診断をするのでしょうか？

実は血液検査と健康被害もなく苦痛も伴わない超音波検査のみでかなりの病気がわかります。肝疾患の原因を調べる血液検査は結果が出るまで数日かかりますが、超音波検査は20分程度で終了しますので、1回の受診で長くお時間をとらせることはありません。

検診で肝機能検査（AST, ALT, γ -GTP など）に異常値があった方、またAST・ALTが正常範囲内でもALTの数値がASTより高い方（慢性の肝臓病が隠れている場合があります）、毎日のように飲酒する方、肥満の方、ご家族に肝疾患がいらっしゃる方など一度肝臓外来を受診し、慢性の肝疾患がないことを確認して下さい。

まずは受診することが大事です！

◇◇肝臓外来診療時間◇◇

初診・再診共に 火曜日～金曜日 午前8:45～12:30
午後1:30～05:00
土曜日 午前8:45～12:30
(第2週のみ月・木～土曜日)

※ご来院の際は、前もって担当医師の休診の有無を電話で確認の上ご来院ください。

※新患の場合は、診療終了の1時間前には受付をして下さい。

副院長 斉藤 浩之

旭川医科大学 卒業

日本消化器内視鏡学会専門医
日本内科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓病学会専門医
日本医師会認定産業医



医療法人元生会

愛生病院

〒078-8340 旭川市東旭川町共栄223番6

Tel: 0166-34-3838

<http://aisei-hp.jp>